



刈谷市の人口動態の変化

刈谷市民の声

(歳)	2016年(人)	増減(人)	2019年(人)	増減(人)	2023年(人)	4月1日付
0	1650	-410	1510	-232	1278	
1	1643	-134	1509	-145	1364	
2	1515	-25	1490	-265	1225	
合計(歳)	4808	-299	4509	-642	3867	
3から5	4552	-85	4467	-365	4102	
0から14	22149	14.80%	21818	14.30%	21084	13.80%
15から64	98594	66.00%	99814	65.60%	100031	65.60%
65以上	28502	19.00%	30349	19.90%	31313	20.50%
人口	149245	2736	151981	447	152428	

加速する刈谷市の少子化

2016年と2023年の0、1、2歳の人数を比較すると941人も減少しています。3、4、5歳は450人、0歳から14歳は1065人減少しています。この少子化を底打ちさせることが最重要課題です。その為には子育て、教育政策の充実が必要です。「高校生の医療完全無償化」「給付型の奨学金」「子育て世代の固定資産税、都市計画税の減免」等を行い子育てのしやすい刈谷市にしなければなりません。刈谷城建設より子ども達の為に税金の再配分を！

アレルギーの児童・生徒が増えています。

2017年5月1日					
小学生児童数	アレルギーの児童数	割合	中学生生徒数	アレルギーの生徒数	割合
8441人	720人	8.60%	4175人	326人	7.80%
アナフィラキシー症状			エピペンの携帯数		
47人			42人		
2022年5月1日					
小学生児童数	アレルギーの児童数	割合	中学生生徒数	アレルギーの生徒数	割合
8737人	805人	9.20%	4138人	383人	9.30%
アナフィラキシー症状			エピペンの携帯数		
89人			84人		

※アナフィラキシー症状は、薬や食物が身体に入ってから、短時間で起きることのあるアレルギー反応です。じんま疹などの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状が急に起こります。

※「エピペン®注射液」は、医師の治療を受けるまでの間、アナフィラキシー症状の進行を一時的に緩和し、ショックを防ぐための補助治療剤です。

給食に有機米、有機野菜の導入を！小麦粉は国産100%の使用を！

刈谷市の児童・生徒のアレルギーの割合が増えています。2017年と2022年と比較すると、児童は8.6%が9.2%に生徒は7.8%が9.3%に増えています。アナフィラキシー症状の児童・生徒は47人から89人と2倍以上になっています。食物アレルギーは食べ物と密接に関係しています。家庭でのケアも必要ですが、子ども達が食べる給食の改善も必要です。全国の自治体で有機給食の導入が進んでいます。刈谷市においても完全な有機給食の導入は無理だとしても、徐々に有機米や有機野菜の導入が必要だと考えます。また、現在、週1回のパン食がありますが、このパンの国産小麦の割合は50%ですから、これを100%にすべきです。刈谷市が農家の方々に有機米や有機野菜の栽培を委託して全量買取にすれば市内での農地の維持に貢献も出来ます。刈谷市には子どもの食の安全を推進していただきたいです。



清風クラブ予算要望

